

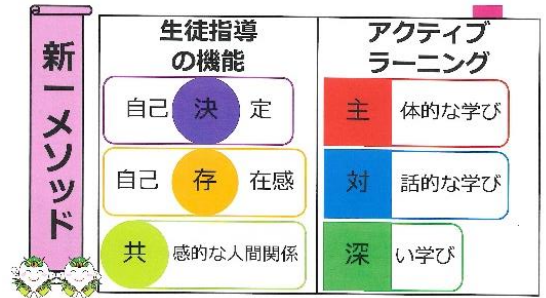
「主体的・対話的で深い学びの推進に係る校内研修」
 ～埼玉県学力・学習状況調査（質問紙調査）の非認知能力向上を目指して～

羽生市教育委員会・羽生市立新郷第一小学校

1 本校の概要

平成29年度より校内課題研修として、主体的に考える児童を育成できるよう生徒指導の機能の留意点と主体的・対話的で深い学びの視点において、先行研究を基に児童の実態等を考慮して本校独自の手立てを作成した。その手立てを「新メソッド」と名付け、全教職員で共通理解し、授業の中で活用し、継続的に研究を行ってきた。

今年度は埼玉県学力・学習状況調査における（質問紙調査）に係る調査結果「主体的・対話的で深い学びの視点で学習を実施することで、学習方略や非認知能力が向上し、このことが学力向上につながる」という内容をふまえ、授業や学校行事において「新メソッド」を活用し、非認知能力の向上、学力向上を目指した。



【新メソッド】

2 具体的な取組

(1) 羽生市教育委員会との連携による取組

- ・年に3回「羽生市学力向上推進委員会」が開催され、各校の学力向上のための取組を紹介し合っている。それをもとに作成した『羽生市子どもの学びを促す「よい取組集」』をもとに、よい取組を校内に取り入れられるようにしている。
- ・県学力・学習状況調査の結果を分析するための方法について、市教委の指導主事を校内研修の指導者として招聘し、効率的かつ綿密な分析を行っている。

(2) 本校独自の取組

- ・学期毎に県学力・学習状況調査の質問紙調査を基にした非認知能力に関する項目と「新メソッド」に関する項目についてのアンケート調査を全学年で実施して学年ごとに集計し、前回のアンケートと比較して結果の良かったものをよい取組として抽出し、全教職員で共有を図った。一方で、学年や児童で結果の出なかったものは課題と位置づけ、「新メソッド」を活用した方策を考察・実施した。
- ・授業の流れを明確にし、児童が安心して学習に取り組むことができるよう、学習の流れや板書の型を全学級統一した。

3 成果と課題

(1) 教師の見取りから

○算数科においては、自力解決の時間を十分に確保することにより、練り上げにおいて児童が他の児童との考えの共通点や相違点を見つけられるようになってきている。特別活動においては、話合いの前に自分の考えを自己決定させることで、進んで話合いに参加している。

○授業実践だけでなく、学校生活や学校行事等においても新メソッドを生かして日々積み重ねて意識実践していくことで、主体的に学ぶ児童が増えている。これらのことから、全教員が「新メソッド」を意識して授業実践を積み重ねることにより、効果が出ていると考えられる。



【授業実践（特別活動）】

(2) アンケート結果（全校集計値）から（5件法で実施）

非認知能力 自己効力感（7月）3.74→（12月）4.01 やり抜く力（7月）3.43→（12月）4.00
 生徒指導・ALの活用（7月）4.19→（12月）4.27

○非認知能力の値は伸びている。全教員が「新メソッド」を意識して授業実践を積み重ねることによる効果が表れていると考えられる。

△非認知能力の結果に伸びが見られなかった児童には、引き続き個別の方策を考え、引き続き支援を行っていきたい。

学習に関するアンケートA

2019年12月 全学年対象 ※赤または青えんぴつで○をつける

名前

領域	No.	質問	5	4	3	2	1
自制心	1	授業で必要なものを忘れた	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	すこしあてはまる	あてはまる
	2	他のうたちが話しているときに、その子たちのじやまをした	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	すこしあてはまる	あてはまる
	3	何からんぼうなことを言った	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	すこしあてはまる	あてはまる
	4	つくえ・ロッカー・机などが散らかっていたので、必要なものを見つかることができなかった	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	すこしあてはまる	あてはまる
	5	家や学校で強にきて、人やものに当たった	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	すこしあてはまる	あてはまる

【児童対象のアンケート】